

年間第24主日 マタイ 18:21~35 「主の祈り」の“赦しへの願い”と関連づけて

以前にもご紹介した、マルティニ大司教は、“ゆるし”に関する黙想を聖ヴィットレ刑務所から考察しました。この刑務所は、教区長としての最初に訪問した場所でした。刑務所には、社会を象徴する多くの苦しみが重なっています。苦痛と抑圧、悲しみの場所です。ここでは、悲劇的な行いへと突き動かす絶望が見られます。衣食住の物質的な糧が、不足しているわけではありません。けれども、自由と家庭的な愛情が欠けています。自由、家庭、家族、平和への大きな飢えがあります。

「私たちの罪をお赦しください。私たちも人を赦します。」 「主の祈り」で私たちは何を求めているのでしょうか。「神との和解」です。また、私たちが「互いに和解すること」で成り立つ和解です。私たちが和解なしの状態にいる時には、決して地上に平和は訪れません。「赦し」への願いは、生活にとって欠かせないものです。

「赦し」は、御父への「赦し」を願うだけでなく、ある種の「度量」を願うことが大切です。自分のした悪を償い、人への赦し方を心得て、人に赦してもらおう心の広さを与えてください、とも願います。「赦し」への願いは、神からの「根本的な祝福」を願うことでもあります。人の良心のためであったり、関係の修復を願っていることにもなります。その祝福がなければ、「日毎の糧」は古びたものになります。たとえたくさんのお金を持っていたとしても、家族の中に平和・和解がなければ、孤独な人生になります。もし和解がなければ、刑を終えても人生は孤独です。再会する人への“ゆるし”と“心の広さ”がなければ、真の意味での再出発になりません。

イエスは言われます。「あなたに言うておく。7回どころか7の70倍までも赦しなさい。」1日何分あるかを計算すると「7の70倍まで赦す」というのは「3分毎に赦す」ことに気がきます。ですから、互いの赦しは、毎日の生活そのものになってきます。

私たちは、互いに多くの事柄を赦し合わなければなりません。私たちに失望させる多くの人々を赦すのです。期待に応えてくれなかったり、困ったときに独りきりにしておいた人を赦すのです。私たちは、心の平和を作るために、いつも和解を表現しなければなりません。「赦し」は神からの祝福で最も大切なものです。キリスト教、固有のものであります。実際、「赦し」がなくては、人間らしい生活は考えられません。「赦し」には、家族と都市、社会の善い関係、和解、人々との心温まる平和を伴います。

ある受刑者からの大司教への手紙です。大司教様の声と心で、私たちが罪を犯した相手の人たちへの赦しを願っています。誠実な望みが私たちの心に生じています。また、父なる神に帰りたいという望み、人間らしい生活・共同体に戻りたい望みが起きています。それは、私たちの体から放蕩息子の衣服を取り除きたい望みでもあります。私たちは、再びイエスという衣を身にまとう決意をしています。イエスは謙遜で平和に満ち、公正で、全てに申し分のない方でした。けれども、捕らえられ、罪の宣告を受け、私たちのために十字架に付けられました。私たちは、イエスから赦しと祝福を心から願っています。

私たちは、赦すことがとても難しく、赦されることはもっと難しいことを知っています。主の祈り

で「私たちの罪をお赦してください。私たちも人を赦します。」と願っています。この願いは、十字架上のイエス様の「父よ、彼らをお赦してください」（ルカ 23：34）という叫びと繋がっています。十字架上でイエス様が願った“赦し”。この重みのある“赦し”が私たちの“赦し”を後押ししてくれるよう願いましょう。参考『イエスの教えてくれた祈り 主の祈り』 カルロ・マリア・マルティーニ枢機卿著